

『剣道と日々の生活』

宮崎県

上長飯剣友クラブ

小学5年 松 迫 凜

ぼくの剣道は、がまんすることから始まりました。剣道を習いたいと言った時に母のお腹の中に弟がいたからです。「赤ちゃんが産まれて、お母さんが動ける様になるまで待てる？そしてそれまで凜が剣道がしたいという気持ちが変わってなければ習いに行こう。」と言われました。

約一年待ちました。そしてぼくの気持ちも変わっていませんでした。

剣道を始める前に両親と二つの約束をしてやっと剣道を始めることができました。

一つめは「練習がどんなに辛くても剣道をやめないこと。」二つめは「剣道と勉強を一生けん命やること。」でした。

はじめはいつもやっていることだから簡単だと思っていました。いざ始めてみると学校の宿題が練習時間までに終わらなかつたり、ぼくが苦手で面倒だと思ってしまうことがたくさんありました。

ぼくは家の手伝いの中でも洗たく物をたたむ作業が一番苦手です。理由は、上手にたためないし、たくさんあって時間がかかるからです。そのぼくに待ち受けていたものは、袴と道着でした。もちろん上手にたためません。面ひもや胴ひもも結べなくて家に帰って毎日練習しました。いつもは見かねて手伝ってくれる母も今回は手伝ってくれません。悲しくて悔しくて眠くて泣いていると、「泣いて出来るようになるのか。これはあなたが剣道をする為に必要なことだから出来るようになるまで頑張りなさい。」真剣な顔で「出来るまでねなくてもいいよ。」「毎日やれば必ず出来るようになる。苦手を苦手なままにははいけないよ。剣道強くなりたいんでしょ。」「反抗的な態度を取ったから、外に出て跳躍素振り百本してこい。」と言われました。

「……鬼か。」「道着をたたむことと強くなることは関係ないじゃん。」と言り返したこともありました。」「そう思っているということが問題だよ。全てつながっているんだよ。」と言われ、もやもやしたまま過ごすこともありました。

ぼくが剣道のことと悩んでいると、左官業を営んでいる父が「俺の仕事は何をしているか知っているか。」「お家の基礎。」「うん。お前はボロボロの基礎の上に家を建てたらどうなると思う。」「崩れたり、壊れたりする。」「今、家族と過ごす日々の中でお母さんや俺によく怒られていることは何だ。」「ぼくが、面倒くさいと思って適当にしたり、苦手だから途中で投げ出したりする時。」「家の基礎をする時も面倒で大変なことばかりだけど、それをしないと基礎がちゃんと出来ない。基礎がちゃんとしてないと家は壊れたりするんだよな。お前は今剣道で技ばかり上達するように練習しているけど、技は家だ。ちゃんと

した家が建つ為には、技を光らせる為には、その土台（基礎）がしっかりしていないと、どんなに良い技が出来ても仕合いで決まらないんじゃないか。剣道で強くなりたいなら、面倒な事も大変な事も苦手な事にもきちんと向きあえ。そうやって毎日きちんと過ごす事が出来れば、出きるようになる。強くなれる。後、自分のやり方に固執しすぎて変なくせをつけるなよ。治すのが大変になるぞ。」と色々とアドバイスしてくれました。

最近になって師に「凜が勝ちたい。強くなりたいと思っている事は良く分かる。ただ技を教えるのは簡単だが、技の前に君にはまだ基本が大切なんだ。大人になっても基本は絶対するし、これからもずっと続けていくんだよ。」と言われました。

言われた事は、生活の事だったり剣道の事だったり家の話だったりごちゃ混ぜだったけれど、ビデオに映っていたぼくの剣道に表れていました。

「本当だつながっている。」

ぼくは、剣道が心の底から大好きです。

父母、先生、仲間達、支えてくれている全ての人達にありがとう。